

第2回 四万十町学校適正規模適正配置等検討委員会議事録（要旨）

1. 日 時 平成19年 6月28日（木） 18:30～21:00
2. 場 所 大正公民館 大ホール
3. 出席委員（14名）

会 長 中平 克喜	副会長 松岡 雅士	
委 員 宮崎 勇二	委 員 藤本 綱男	
委 員 石本 博子	委 員 宮脇 玲子	
委 員 川村 英子	委 員 伊与木 豊	委 員 竹内 忠征
委 員 千谷 純一	委 員 戸田 晶秀	
委 員 大崎 いつ	委 員 國見 寛	委 員 西尾 洋之
4. 欠席委員（2名）

委 員 窪田 敏宏	委 員 高橋 智鶴子
-----------	------------
5. その他出席者（オブザーバー）

高知県教育委員会教育政策課 2名
寺尾 正史、山岡 彰彦
6. 事務局

教育長 水間 淳一 教育次長 長谷部 文男 学校教育課 掛水 誠幸
学校教育課職員（総括主幹 長谷部卓也、主幹 長森伸一）
7. 会次第
 1. 開会
 2. 会長あいさつ
 3. 議事録の調整
 4. 検討項目
 - (1) 前回の課題について
 - ①検討委員会の情報公開について（議事録の公開等）
 - ②検討会の日程
 - (2) 適正規模について
 - ①適正規模の必要性
 - ②国、県が示す適正規模と四万十町の現状
 - ③四万十町の適正規模について
 - (3) 高知県が示す学校規模等について
 - (4) その他
 5. その他
 - (1) 次回の日程等について
 6. 閉会
8. 議事の概要

1. 開 会

○次長より開会のあいさつ。

2. 会長あいさつ

○中平会長より会議のスムーズな進行について委員に協力を依頼し検討を開始する。

3. 議事録の調整

○第1回議事録については、調整のとおり問題ないことを確認。

4. 検討項目

(1) 前回の課題について

①検討委員会の情報公開について（議事録等の公開）

ア. 議事録の公開内容について

【説明の概要】

- ・他自治体の議事録公開例を紹介。
- ・四万十町として議事録は、以下のとおり公開することを提案。
公開内容 仙台市の事例のように議事内容や質疑事項は要約で公表。
発言者の氏名 鴨川市の事例のように職名（委員等）で表示。
- ・議事録公開のイメージを（資料 P1）で説明。
- ・要約した議事録は、会長、副会長で内容を確認し、それを公開用議事録とする。
- ・上記の内容で検討を依頼。

【結論】

- ・要約した議事録を公開。
- ・要約した議事録については、会長、副会長が確認を行い確定する。

イ. ホームページで公開する情報（案）について

【説明の概要】

- ・ホームページ上で公開する情報を説明
- ・ホームページのイメージを下関市の例で紹介（資料 P2～3）
- ・上記のとおりホームページで公開することの了解を求める。

【結論】

- ・ホームページで公開する情報
設置の理由、検討員の位置づけ、要綱、委員名簿、諮問、議事録（要旨）、答申、資料集
- ・情報公開については、今後も検討する。

②検討委員会の日程について

【説明の概要】

- ・各検討項目の回数を説明
- ・各検討会の予定日をカレンダー（資料 P4）で説明

【検討の概要】

- ・6月から12月までの半年の間に答申を仕上げる予定だが、この期間で大丈夫か。
- ・半年の短い期間で適正規模・配置の答申ができるか心配に思っている。
- ・方向性として、この日程で進め、必要なら回数を増やすなど日程を変更する必要がある。
- ・適正な規模と配置の2つの課題がある。分科会に分けて検討した方が、突っ込んだ話が進められるのではないか。最終的には全体で話し合う必要はあるが。
- ・教育委員会としては、まず全体の中で四万十町の適正な人数、規模を理解することが必要。そして次の適正配置へ行くことが適当と考える。
- ・検討会は、毎回夜間とせず、昼間にできないか。
- ・昼間は仕事を休む必要がある。夜の方がよい。日曜日なら昼間でもよい。
- ・日曜日より平日の夜間がよい。地域的にも秋になると日曜に行事が集中する。
- ・開催場所は、3地区で交互に行うのか。四万十町は広く端から端へ移動することは大変。大正か窪川で開催してもらえればよい。

【結論】

- ・共通認識として、委員全体で適正規模を検討する。分科会については、審議を進めて行く中で必要になった場合に検討。
- ・日程については、説明のとおりで承認。
- ・計画どおり協議が終わらない場合、検討回数を増やすことを確認。
- ・各検討会の開催予定日については、その週で各委員の都合がよい日を開催日とし、日曜が入る場合もある。日程については、揺り動かしもあるのでその都度決定。
- ・開催会場については、大正、窪川と交互に設定。

(2) 適正規模について

【説明の概要】

- ・規模と配置の内容が混乱しないように項目を整理し検討を進めることが必要。

【適正規模の検討項目】

①適正規模の必要性

学校とはどういったところかを確認して、適正規模の必要性を整理

②国・県が示す適正規模と四万十町の現状

国、県が示す適正規模について法令等を基に整理・確認する

国、県が示す適正規模が四万十町に適合するかを検討する

③四万十町の適正規模について

過小規模校（複式学級）のメリット・デメリット

1学年の学級数と1学級の人数 → 四万十町の学校適正規模を検討

④当面、適正規模化を望めない学校に対し、学校運営していく上で必要な児童生徒数を検討

- ・今回は、①から③を検討することでレジメを作成していることを説明

①適正規模の必要性

【検討の概要】

- ・何をもって適正とするのか。そこに一つの観点があるが、適正規模は当然必要。この委員会もその観点から発足している。必要性の項目については議論の余地はない。

- ・四万十町として適正な規模を進めていく話し合いをする必要がある。ただし県が示す適正規模が、四万十町の適正規模なのかについては、議論が分かれるところ。
- ・県の資料で適正規模を出しているが、実際にはかなり難しいと現実的には思う。国の基準と県の基準にかなり差があると思うが、それに至る理由がない。何をもってこの数字に落ち着いたのか。四万十町の現状を考えた場合、県の適正規模と差があるものを出すと思うが、県ではどのような意見が出たのか。高知県の現状的数字は加味されてないのか。
- ・「高知県における小中学校の適正規模」は、国、県の比較の問題ではない。あくまで教育的観点で、小中学校で本来子どもたちに身につけさせたい力を育成するには、どの程度の規模が必要かという論議。高知県で可能、不可能が前提にあつての論議ではなかった。もう一つは、この冊子は、高知県教育委員会が各市町村におろしたものではない。それぞれの市町村では、学校が小規模化していく中で厳しい現状が訴えられていた。そのため今後の教育環境・条件等の整備の中で、参考になる基準が示されていないと各市町村がバラバラに考えなければならないので、その指針を示してほしいとの要請がたくさんあった。これを配布する時も、県が押し付けるものではなく、一つのモデルケースとし、あとは市町村で判断してもらうべきものと考えていた。
- ・現実として適正規模化されていないのが事実で、学校の統廃合を真剣に考える時期。地域では、学校がなくなると地域が寂れるとの考えが多い。しかし保護者としては、できるだけ子どもが多い学校で競争心を育てながら成長していくことが大事だと思う。そうなると適正規模が大事。
- ・適正規模は大事。しかし小規模校は人数が少ないため悪いとも言い切れない考えもある。やはりメリット生かす考えもいるのかなと思う。

【結論】

- ・学校の適正規模については、必要であることを全員で確認。
- ・小規模校にもメリットがあり、適正規模の人数については、検討の必要性がある。

②国・県の示す適正規模と四万十町の現状

【検討の概要】

1) 『国県が示す適正規模と学校の現状について』

- ・1学級20人から25人が一つのたたき台になるかもしれないが、現状の四万十町の学校規模からそうなるのか。
- ・1学級20人以上で各学年2学級が適正となっている。集めれば数字的には可能だが、それが現実的か。
- ・進学とか特徴をもって集めることも可能かも知れないが、通学範囲が広過ぎる。
- ・現実的でないが、四万十町で県、国が示す適正規模の学校を作った場合、小学校3校、中学校2校の試算となった。(ただし地理的、学校位置などの考慮なし)

【資料：「国・県が示す適正な学級数より算出した四万十町の学校数」(H24推計より)】

- ・小学校の場合、地域的なことを考えると2学級は無理じゃないか。1学級で勉強した方がよいのかなという気がした。
- ・友達関係がぎくしゃくしている部分でクラス替えがあると新しい友達関係ができるイメージは確かにある。また不登校など配慮する必要がある子どもについても、友達のおかげで登校した例もある。友達関係の固定化は、排除できる。いまの学級の現状を見ると、20人の学級

と30人の学級があるが、学習・規律面で見ると少人数の方がかっちりできる実態があり、特に小学校の低学年では、1学級の人数が強く影響していくと感じる。

- ・以前、勤務していたところは、保育から小学校にかけて同じで、いじめなど人間関係固定化による問題を経験してきた。窪小などは、2年に1回クラス替えがあり、人間関係が新しくなるというメリットはある。社会性の面から言うと、一定規模の学校の方が色々な人間関係を経験できるメリットもある。
- ・きめ細かな指導などは小規模校にメリットがある。現在は、3・4年が複式。学校運営で一部教科を単式化している。しかし、課題を持つ児童が転入した場合、その対応に追われる。
- ・一定規模の学校は、適正と言われるだけあって、適正な部分はある。しかし四万十町の状況で考えていった場合、地理的に広いので、国、県の基準ではいけない。学校の中で適正規模について話した場合、それぞれの先生が卒業した学校や勤務した学校等で隔たりがある。そのあたりを論議しなければ、難しい問題になると思う。
- ・現在の学校では、20人学級は到底考えられない。適正は何人かと問えば、4人や5人で適正との答えは出ない。やはり県と言われる一定の人数があり、クラス替えがある方が教師をしている上では必要と思う。特に中学校ではクラス替えが必要。しかし1時間かけて通っている子どもがいるが、それがさらに遠くなるのはどうか。教師をやるならある程度の適正規模は必要だが、現実に勤務する場合には、学校の置かれている現状があるので、適正化しなければとは言えない。しかし小規模校だからと言って大規模校に行ってもものと言えないことがないように指導している。
- ・20人が適正であれば、それを適正として決めなければならないのか。小規模校には、小規模校なりの適正がある。四万十町は両極端であるため、県や国の規模を満たせる学校が適正との1本立てで考えるのはどうかと思う。
- ・適正な人数も大事だが、やはり配置も前提で規模を考えることも必要。1本立ては難しいと思う。
- ・地区から見たら小学生は歩いていくものだと思っていた。適正規模を考える上で、クラス替えを経験したことがない子どもが多いので、クラス替えを経験させてやることもよいかと思う。また地域と学校の関係について思えば、PTAの若い保護者と地域との連携がまだうまくできていない。規模がどうなのかと言われると、やはりある程度の人数が必要だと思う。
- ・やっぱり地域性が第一と考える。人数で決めると近い学校どうしで決まってしまうが、通学距離が長いところも出てくる。そのバランスも検討していく必要がある。
- ・本校の場合13の小学校から集まる。そのほとんどが複式小規模校で、入学後は、複数のクラスに分かれるためクラスに自分しかいないという状況もある。その実態として子どもの仲間づくりとか、集団づくりとかが大変難しいと感じる場合がある。子どもたちも気を使っているし、苦労していると思う。もちろん学校の責任としてきちんとしていかなければならないが、県内の中学校にも13の小学校から集まってくる中学校の例は他にないと思うが、それを考えると9年間見通して成長させていくので、小学校と中学校がきちっと連携し見通しをもった育成プログラムをつくりあげていく必要がある。子どもの人間関係も含め、学校数をもう少し絞っていくことを考える必要があるかなと感じる。
- ・中学校の場合、部活動もあるが、本校では子どもがしたいクラブを選ばせてやれる。それで全ての問題が解決するわけではないが、自分の適正に応じたクラブ活動ができる。また運動会、

文化祭、その他学校行事を取り組んでも一定数あるため、学校としての勢いも出しやすいと感じる。

- ・競争を煽るのではないが、いろんな形で学級対抗、例えば漢字テストを学級で競い合っている。そういう部分でもある意味、自分の内面を鍛えるのに役立っていくと思う。
- ・うちの中学校は、保育園から同じ人間関係で、ある面友達関係が長いので仲がよい。これ以上人数が減ると大変で複式になると勉強は難しくなるのに半分は自習となる。また教員配置の問題もある。クラブ活動では、男女それぞれ1クラブしか選べない問題もある。人間関係については、いろんな人間関係に触れさせることはできないが、他校との交流などできるだけデメリットを省くことを試みている。
- ・現在の学校では、一人ひとりがよくがんばっている。個々ががんばらないと回っていかないと現実があり、一人がさぼるとどこかが動かなくなる。みんながその場で主人公になれるところが良い。実際、協力しなければやれないところがあり、その部分については、身につけていただいていると思う。
- ・1小1中では、保育所も含めて、中学校を巣立っていく11年から12年を縦に見通した体制を築かないといけない。ただ以前勤めていた学校は、一つのグラウンドをはさんで幼稚園、小学校、中学校があり、中学生が入らないと何もできなかった。小学校の時に結構、ギクシャクしていても、中学校で対応を考え受け入れ、また思春期を受けて子どもたちも変わる。中学校で教科を複式にすることは、現実としてしんどいと思う。ただ子どもたちが活躍する場を意図的に学校が工夫すれば、子どもはいい方向に育っていく。
- ・事務局の資料を見て、実際どうやって通学するのかなと思った。いま遠いところの子どもは、学校まで車で約40分ぐらいかかる。どこの学校と一緒にするかは別にして、さらに長い通学距離を通うと思ったら、規模も大事だが、配置も大事という認識もよく分かる。

2) 『小規模校学級での人数について』

- ・現状を見てみても、10名集めることも大変ではないか。平成19年と平成24年を比べて増えるところはない。適正規模をどうと言っても現実には難しいのではないか。
- ・1学年1学級であっても、複式は避けて欲しい。高学年になるに従って、学力が心配。親の気持ちとしては、学校の授業で中央部の高校も狙える学力をつけてもらいたい。我が子のことを考えると、複式で片方の学級を教えている間に自習をするかと言えば難しいと思う。
- ・統合するにも一緒にできる範囲がある。小学校では、複式が解消される1学級10人の6学級が限界。それ以上の規模では、通学が大変になるので親から見て子どもがむごい。

3) 『複式について』

- ・本校では、複式の学級を固定化している。しかし算数だけは、単式で指導したいので運営上工夫している。国語もできれば単式が良いが、教員がいないのでその部分の不具合はある。複式のデメリットばかり言って仕方ないので運営上工夫して問題解消に努めている。ただし単式が理想だと思う。
- ・複式学級で創意工夫しても、単式学級と同じような授業はできない。複式の学校では、教員の空き時間を単式授業の時間に充てている。そのため教員は、全く空き時間なく指導している。

4) 『四万十町の実態である小規模校の適正について』

- ・適正配置と適正規模とは、基本的に違った観点から議論をしていく。今は、適正規模とは子どもの教育的ニーズに基づいて、どれくらいの規模が必要かという観点なので適正規模にすれば

適正配置になるわけでない。適正規模にすれば当然無理が出てくる。

- ・町内の学校を2から3校にすれば適正かもしれないが、子どもが通学できないなど様々な支障が出てくる。適正規模の中に条件を当てはめていこうとすると、どうも規模そのものの説明が難しい。やはり規模としては、数として望ましい数となる。しかしそれだけでは学校は決まらない。規模だけでなく、地域性や様々な条件を考えて学校を考えていくことがベターと思う。
- ・全く個人的な考え方だが、国の基準、県の基準では地域性が考慮されてないが、規模としてはほぼ妥当な基準だと思う。しかしそれを当てはめていくと他に無理が生じる、というように集約していく方が良いでないか。
- ・2002年に国の教育政策研究所において、1クラスでどの人数で一番効果が挙がるかの調査を実施。小学校では、算数については11人から20人、音楽や体育については、多い人数の方が色々な競技ができるため26人から30人、その他の教科は、21人から25人が適正となっている。しかしこれが本町の適正とは違うと思う。
- ・適正規模の人数だが、最近は躰の面とかしなければならぬ子どもが多いため、20人程度が適正と思う。ある学級は、一人でもいなくなると1クラスになる。しかし今の雰囲気と言うと20人学級で指導してきたことが活かされてくると思う。そのため20人と30人の違いは大きいと思う。
- ・20人から25人が県などは適正と示しているが、四万十町としては10人ぐらいになっても仕方がない。やっぱり小学校の児童生徒数を見た中で検討をする必要がある。
- ・教育的配慮から適正とすれば国、県の示すものとなる。しかし学校としてこれだけの数がなければ子どもたちに十分な手立てができないという、適正ではないが必要な数を規模の考え方に持つ必要がある。そして次に距離や地域性などの物理的な条件として適正配置を考え、最終的に規模と配置の具体像が決まるのかと思う。

5) 『次回検討する観点』

- ・国県が示す適正規模が、適正であると共通認識を持つことはできる。しかし四万十町ではそれに対応できない。その場合、子どもたちのためにどれぐらいの数字を下げたところが、四万十町の小中学校において望ましい児童生徒数となるか。
- ・上記の観点から必要な数について次回検討する。

5. その他

○次回の日程について

- ・7月17日、午後6時30分、場所は窪川で決定。

○本検討委員会をそれぞれの組織へ報告することについて

- ・ホームページに議事録の要旨を載せていくので、その内容を話してもらおう。

○本検討会の傍聴について

- ・原則としてホームページで会の内容を公開するので、そちらを見てもらうことで対応。

6. 閉会

○教育長あいさつ

- ・活発な意見をしていただきありがとうございました。色々な意見を最終的に集約して、その考えを基に次のステップに進んでいきたい。これからもいろいろな意見をお願いします。

○21時00分に閉会

9. 配布資料

- 公開用レジメ
- 公開用議事録（案）・【公開は省略】
- ホームページでの公開イメージ【公開は省略】
- 検討会の日程について
- 国・県が示す学級数より算出した四万十町の学校数（H24 推計）